I&K 家庭新聞

「風の音」を聴いた

パブクロール＝はしご酒で

馬に乗ってどこまでも続く原野を駆け抜ける爽快感は筆舌に尽くしがたい。

最初のパブクロールの時だった。馬に乗ったとたんに人間が変わるといわれる私は、馴らし乗馬ということを忘れて、思い切り走らせてしまった。

条件も揃っていた。土は硬く、草原は開け、馬は喜び、私はなにも考えず、ひたすら馬を駆けさせた。すごいスピードが出たと思う。なぜなら、そのとき私は確かに風の音を聴いたのだから。

もういちど、あの風の音を聴いてみたいという思いに駆られてパブクロールに熱を上げる私。

パブクロールとは、直訳すれば「はしご酒」。正式には

PUB CRAWLS ON HORSE BACK。馬に乗って村から村へ旅をするのだが、意外とたいへんな代物だ。1日平均40キロ、2つほど山越え谷越え、川を渡り草原を走り、村に1軒しかないパブに馬を預け、酒を飲み、食べ、寝る。

翌朝8時に馬装を整え、9時には出発。昼食用のパンと水だけを持ち、トイレ休憩を3回ぐらい取るだけで、あとは走るか歩くか、ひたすら馬上のひと。夕方の4時ごろ、その日の宿であるパブに到着する。こういうスケジュールが1週間続くのだ。

道中では狐やカンガルーの親子、ひとり遊びの赤ちゃんカンガルー、牛や羊の1万頭もいるかと思われる群れに出会ったりする。オーストラリアの自然はまさに雄大で、ワイルドな感動がこみあげてくる。

宿に到着すると、馬に餌をやり広い囲いに放ってやるのだが、その前にリンゴや砂糖を与える。馬だってやっぱり疲れているだろうし、明日のために手なずけなくっちゃ。あ、そうそう、馬もビールが大好きなんです。

もちろん私もまずビール！ 皆でロ々に『tothe bar! tothe bar! bar! bar!』と唄いながら酒場へ繰り込む。このあたりがパブクロールのだいご味である。

今年、オーストラリアは大雨が続いた。昨年の早魃（かんばつ）が嘘みたい。当然のことだが川の水かさも増した。日頃の心がけが

発行所　名古屋市昭和区吉田町3-21
I&Kプロジェクト
代表　君 勇夫・君 喜代子
制作協力　朝日新聞名古屋本社
ASA-COMなごや
電話　（052）221・0362

おんなの時代

アウトドア特集

無人の原野（豪州）を馬で駈ける　竹村亜希子さん

よろしいせいか、私たちの旅行中は1日も降らなかったけれど、写真（上）の川渡りのときはさすがに大変。水深は1メートルを超していて、ほとんどのひとが腰までびしょ濡れになった。昨年は3回出かけた。今年は、3月上旬に4回目のトライ。

私の会社のスタッフで馬仲間でもあるY女史は2回同行したのだが、初回には初日にお尻の皮がむけてしまった。今回は悪い姿勢で乗ったため3日目にギックリ腰でリタイア。それでも彼女、また行きたくてウズウズしている。

馬を駆って旅をするパブクロールは日本ではまだ知られていない。ヨーロッパやアメリカからは多いのだが、日本人では私が3人目だった。これぞ旅の穴場だと自負している。

（占いの玉手箱主宰）

澤田ゆう子さん

子供が小さい頃、我家では外遊びを、たくさん楽しみました。とく近くの天白川には、よ遊びに行きました。

春は、土手におりて筆（つくし）を摘みました。また、しろつめ草摘み、首輪を作りました。

夏には、海水パンツになり、魚とたわむれました。水遊びをしているま横を蛇が川を泳いで渡っていきました。

秋は、広い河川敷でトンボを追いかけながら、キャッチボールをしました。

でも、いちばん楽しかったのはサイクリングです。